

2025年日本国際博覧会におけるポーランド共和国

- 2025年大阪・関西万博ポーランドパビリオンは、文化、テクノロジー、そして地球の未来を変えるアイデアが会う場となります
- 万博におけるポーランド共和国プロモーションのプログラムは、100個以上のイベントから構成され、国際的な場でのポーランドのイメージを強化し、新たな経済的パートナーシップの構築やポーランドの科学・文化・観光・スポーツの発信につながります
- 本プロジェクトは、ポーランド投資・貿易庁 (PAIH) がポーランド開発・技術省の監督のもとで担当しています

2025年大阪・関西万博の6か月間の会期中に、約2800万人が訪れ、そのうち350万人が海外からの来場者となると予測されています。世界中から161の国・地域と9つの国際機関を合わせて、計170の参加者が出展する2025年大阪・関西万博。大阪湾の人工島である夢洲で開催され、2025年10月13日まで続きます。

2025年大阪・関西万博は学生や専門家、また新たな経験やインスピレーションを求めるファミリーなど、あらゆる人々に開かれたイベントだと、万博主催者は強調しています。革新と伝統が交差し、異文化間の対話を通じて国々を結ぶ架け橋が築かれる場となるでしょう。

ポーランド共和国の2025年大阪・関西万博出展に伴う主要な経済関連イベントの一つが、2025年5月20日にヒルトン大阪で開催される「日本・ポーランド貿易フォーラム」です。

2025年大阪・関西万博におけるポーランド共和国出展の目的

今年の2025年大阪・関西万博のテーマは、「いのち輝く未来社会のデザイン」です。このテーマは、すべての人々がより良い暮らしと明るい未来を享受できるよう、国家や人々があらゆる垣根を越えて協力し、世界規模で交流を深めることを目指しています。

ポーランド共和国が2025年大阪・関西万博に参加する主な目的は以下のとおりです。

- 「ポーランドブランド」の認知度向上 - ポーランド経済、ポーランド企業の創造性、革新的なソリューションを幅広く多面的にPRする
- 海外におけるポーランド製品の認知度向上と、非ヨーロッパ市場との協力関係の発展
- ポーランドにとって戦略的産業分野で特に有望な市場であると考えられている日本や、その他の地域諸国との経済協力の発展
- ポーランドの安全な投資先としての地位の強化 - 特に質の高いインフラと人的資本が不可欠な技術先進分野の投資先としての地位確立
- 日本やアジア諸国からポーランドへの観光の振興
- ポーランド文化の振興

2025年大阪・関西万博:ビジネスでの新たな展望

ポーランド投資・貿易庁はパートナー機関と協力し、世界最大規模のプロモーションおよび経済イベントである2025年大阪・関西万博を通じて、ポーランド企業が日本市場に進出するための多彩なビジネスイニシアチブを用意しました。

そのイニシアチブのうちの1つが、2つのビジネスフォーラムです。1つは2025年5月20日にヒルトン大阪で開催されるポーランド・日本貿易フォーラム、もう一つは9月30日に開催されるポーランド・日本投資フォーラムです。

さらに、ポーランド文化・国家遺産省、科学・高等教育省、教育・科学省、スポーツ・観光省、11の地方自治体と協力し、ポーランドの多様な分野での実績を総合的に発信するプロモーションプログラムを準備しています。

外交面では、大使館、各種研究機関、省庁など、外交・行政機関の高官レベルの代表者がプロモーション活動に関与しています。ポーランド・日本間の公式訪問を含む二国間関係のみならず、特にポーランドがEU理事会議長国を務める時期であることから、EU加盟国間における多国間活動にも取り組みます。

これらのビジネス関係のB2B協業の取り組みは中小企業から大企業まで幅広い企業を対象としており、アジア市場、特に日本市場への進出において、広報活動・組織面および資金面での支援を提供します。

2025年大阪・関西万博での経済プログラムは特に、アジア市場に対する輸出ポテンシャルが高く、日本との貿易関係で優先度の高い以下の6分野に集中して実施されています。

- 医療・医薬品産業
- IT・フィンテック産業
- グリーンエネルギー産業
- AgriTechを含む農林水産・食品産業
- 化粧品産業
- ゲーム産業

創意の園(Plantation of Ideas)

ー ポーランドパビリオンにおけるイノベーション

ポーランドパビリオン内に設置された「創意の園」という特別な展示では、ポーランド発の革新的なアイデアが経済・ビジネス・科学の分野においてどのように実用化されているかを、分かりやすくかつインタラクティブな形式で紹介しています。

このエリアの共通のテーマは「ポーランドの創造性の遺伝子」です。企業が開発した各ソリューションは、自然界のモデルと最先端のテクノロジー、最新の研究成果や科学的知見の融合から生まれ、人々のより健康的で安全、そして安心な暮らしを実現し、かつ従来成し得なかった方法で周囲の環境を形成する可能性をもたらしています。

Poland.

Expo2025.Osaka.Kansai

この展示では、ポーランドと日本の経済協力の発展において重要な役割を担う産業分野が紹介されています。展示空間はたくさんの「球体」によって構成されており、それぞれがポーランド経済の特定分野を象徴するクラスターとして配置されています。各重要分野には、それらを象徴するキーメッセージと補足的なキャッチコピーが付けられており、詳細は展示エリア内のマルチメディアプレゼンテーションのスクリーンで解説されています。

これらのクラスターはポーランド経済の主要産業を表しており、各産業が相互に影響し合いながら一体的な構造を形成しています。これは、現代社会の複雑な課題に取り組む学際的なプロジェクトの在り方を象徴しており、単一の分野に限定できないイノベーションの特性を表現しています。

空間全体は、自然界のダイナミズムを思わせる有機的な仕掛けでデザインされており、「球体」は情報の担い手であると同時に、照明装置であり、展示物や技術のプレゼンテーション媒体でもあります。球体同士が織りなすビジュアルモザイクによって、観る者に鮮烈な印象を与えます。さらに、壁面と天井の鏡面仕上げが空間に広がりを与え、展示を一層印象深いものにしています。

ポーランドパビリオンでこれまでに開催された主なイベント

2025年4月13日のオープン以来、ポーランドパビリオンにはすでに10万人を超える来場者が訪れています。これまでに行われた主なイベントは以下の通りです。

2025年4月13日 – ポーランドパビリオン公式オープニング

開館式では、クシシュトフ・パシク開発・技術大臣が登壇し、大阪・関西万博へのポーランド共和国の参加が、自国の経済・文化・イノベーションの魅力を世界に発信する好機であると強調しました。また、"2025年日本国際博覧会ポーランド政府代表ヤツェク・トムチャクは「ポーランドは、文化・ビジネスの両面において信頼できるパートナーとして認識されることを目指す」と述べました。

2025年4月13日～19日 – ポドラシェ・ウィーク

オープン後最初の地域ウィークとして、ポドラシェ地方を取り上げました。伝統工芸の実演、民俗舞踊団のパフォーマンス、郷土料理の試食会、そしてビャウオヴィエジャ原生林の生態系に関するパネルディスカッションなどをはじめとする魅力的なイベントが開催されました。

2025年4月22日～26日 – ポーランド「科学・教育デイズ」

ポーランドの大学や研究機関による革新的なプロジェクトの紹介、若者向けのSTEAM教育ワークショップ、持続可能な開発や未来の教育に関するパネル展示など、学术界を中心とした交流の場となりました。

2025年4月24日 – レシェック・モジジェル コンサート

東大阪市文化創造館にて、世界的ピアニスト・作曲家であるレシェック・モジジェルによる特別コンサートが開催されました。モジジェル氏は、アートと科学の融合に取り組む独創的なアーティストであり、今回の演奏会では、日本初披露となる世界唯一の「デカフォニック・ピアノ(10音階)」を使



Polska Agencja
Inwestycji i Handlu
Grupa PFR



Ministerstwo
Rozwoju i Technologii

Poland.

Business Forward

Poland.

Expo2025.Osaka.Kansai

用しました。本イベントはポーランド「科学・教育デイズ」の一環として行われ、文化と科学の垣根を超えたポーランドの創造力を象徴するコンサートとなりました。

2025年4月27日～5月3日 – ウッチ・ウィーク

ウッチ発のアパレルブランドによるファッションショー、大学による研究プロジェクトの発表、地元アーティストによるコンサート、文化機関による教育ワークショップなどが行われました。また、経済プロモーションとして視察も実施され、ウッチ特別経済区の代表も参加しました。

2025年5月3日 – 5月3日憲法記念日

ポーランド憲法制定234周年を祝う式典には、ウッチおよびシロンスクの代表団が出席。ポーランド国立民族合唱舞踊団「シロンスク」や、20年にわたり日本でポーランド民俗舞踊を広めてきた関西ポーランドダンス愛好会が出演しました。フィナーレとして、ポーランド国立民族合唱舞踊団「シロンスク」のナイトコンサートが、万博会場内のフェスティバルステージで開催されました。

2025年5月4日～10日 – シロンスク・ウィーク

ワークショップ、プレゼンテーション、コンサート、舞台公演などを通じて、シロンスク地方の文化の豊かさと経済的ポテンシャルを紹介。伝統文化だけでなく、鉱業の遺産から最新技術に至るまで、地元企業も参加して多様な地域の魅力を発信しました。

2025年5月5日 – 「こどもの日 × ショパン」イベント

ショパン生誕地をテーマにした音楽コンクール、ショパンランドコンクールの若き受賞者たちがパビリオンのホールでリサイタルを行いました。さらに演奏後には、常設展示の見学や創造的ワークショップ、ポーランド投資・貿易庁関係者との昼食会も開催されました。

2025年4月13日以降毎日 – ショパンのデイリーリサイタル

オープン以来、ポーランドパビリオンでは毎日ショパンのリサイタルが開催されています。日本の来場者の心を打つ演奏は高い人気を誇り、万博期間中に合計約500回のリサイタルが予定されています。演奏を行うのは、若き優秀なピアニストたちで、彼らはまさに万博のスターとして注目を集めています。

2025年大阪・関西万博におけるポーランド

ポーランドは「いのちを救う」(Saving Lives)をテーマとするエリアに、約1000平方メートルのパビリオンを建設しました。

パビリオンの建築デザインは木材を中心に、アーチや曲線を生かした造形を特徴としています。建物全体の形状は、ポーランド人の創造性や革新性が広がっていく「波」を連想させます。

また、特徴的な木製ファサードは、日本の伝統的な木材接合技術である「木組工法」を取り入れており、ポーランドと日本の伝統的建築への敬意を表現しています。



Polska Agencja
Inwestycji i Handlu
Grupa PFR



Ministerstwo
Rozwoju i Technologii

Poland.

Business Forward

館内は、人の流れが停滞しないよう人間工学に基づいて設計されており、様々なご来場者に対し、驚きや興味を喚起する展示を、視覚的にも魅力的な形で提供しています。

建築コンセプトはポーランドとスペインの建築家デュオ、アリツィア・クビツカとボルハ・マルティネスが手がけました。

ポーランドパビリオンの常設展示

常設展示のコンセプトは、モニカ・ブラウンチフ(KAFTI)、エヴァ・キエルクロおよびスタニスワフ・ケンパ(GDYBY)、そしてヴィエスワフ・バルトコフスキの4名からなるキュレーター・チームによって作られました。ポーランドパビリオンの常設展示は、自然とテクノロジーを調和させる方法を提示しています。人類が自然とどのように向き合っているのかを批判的に捉え、私たちが目指す未来の姿について問いかけます。

- 心象の緑 (Spirit Plant)

ハーブの力とその治癒的な効果の世界へと来場者を誘う展示。来場者はインタラクティブパネルを使って、植物をバーチャル上で育て、育った植物をスマートフォンに保存したり、SNSで共有したりすることで、作品の共同制作者となる体験ができます。ビジュアルデザインはポーランドの自然科学スケッチの伝統を想起させるスタイル。インスタレーションの制作者はマルチン・イグナツ氏です。

- 七草 (Seven Herbs)

「心象の緑」に隣接する、ポーランドの伝統において重要な7種のハーブを紹介するデジタルハーバリウム。それぞれのハーブにはアニメーションが施されており、特徴や民間療法における活用の歴史を視覚的に学ぶことができます。このマルチメディア教材は、古典的な植物画のアナログな美しさと現代的な投影技術とを融合させたユニークなものです。インスタレーションの入口付近には、大型の半透明スクリーンが設置されており、の7種類のハーブ(セントジョーンズワート・ミント・ヤロウ・レモンバーム・カモミール・セージ・イラクサ)について紹介する短編アニメーションが上映されています。音響演出には、自然界の特徴的な音と葉のかすかなそよぎを織り交ぜたサウンドスケープが使われ、展示の雰囲気を一層引き立てています。壁沿いには7種類のハーブを紹介する7つのタッチパネルが設置されており、パネルに触れるとその植物の成長過程や植物構造、古典的な植物画の一部を描いた短いアニメーションが再生されます。また、バーチャル上のハーブをタッチパネル操作で3Dで回転させることもでき、植物の細部を立体的に観察できます。

- ポーランドの原風景 (The Most Polish Landscape)

シモン・ペプリンスキとヴィエスワフ・バルトコフスキによる本展示は、人工知能と来場者の体験とを融合させた、インタラクティブなマルチメディア作品です。パノラマスクリーン上に、ポーランドの山岳地帯の頂、平地の草原、海辺の断崖といったさまざまな風景がリアルタイムで生成され、来場者の動きや位置に応じてスムーズに変化していきます。スクリーンの前での一挙手一投足が視覚表現のパラメータを変化させるため、まったく同じ風景が再現されることはなく、詩的なシークエンスの中で「風景が形づくられ、変容して

いく」体験を提供します。幻想的とも言える唯一無二の風景がその場で創造されるのです。

この作品は、ポーランド各地で撮影された数千枚の写真を機械学習しており、既存の風景を再現するだけでなく、ポーランドの多様な自然の象徴ともいえる、理想化された新たな風景を創出することができます。

- オーラ (Aura)

自然素材、伝統工芸、そして最新のデジタル技術を融合させたインスタレーション。来場者の存在や動きに反応する、インタラクティブなオーケストラです。

この作品の各楽器の中核を成すのは、シヨパンゆかりの地であるジェラソヴァ・ヴォラ周辺から採取された柳です。柳はフレデリック・シヨパンと深い結びつきを持つ植物であり、そのしなやかな繊維構造と弾力性により、温かみのある有機的な音色を生み出します。この音色が、本作品の芸術的実験の出発点となっています。

「オーラ」は、デジタル制御されたオーケストラのように機能します。接触式マイクとモーションセンサーが、観客の繊細な振動や動作を検知し、それらの情報を人工知能がリアルタイムで処理します。アルゴリズムが音の強弱・高低・音色を決定し、柳から独自の音を生成して、毎回異なる音響・映像のパフォーマンスを創り出します。

ヴィエスワフ・バルトコフスキ、オルガ・ミルチンスカ、イェジ・ロギエヴィチの3名による作品です。

- 歴世 (Generations)

「心象の緑」で来場者がバーチャル上で創り出したハーブを活用した、動的に進化するギャラリーです。

来場者は、インタラクティブなデジタルパネル上で、象徴的な「シード(種)」の中から1つを選ぶことで、この作品に参加を開始します。種は、植物をモチーフにしたグラフィックで表現されており、「勇気」「好奇心」「協調」などの価値観や、葉の形・花弁の色といった形態的特徴を象徴しています。これにより来場者は、自身の想いや価値観を集合的なストーリーに意識的に組み込むことができます。

選択された「シード」は、パラメトリック・アルゴリズムによって解析され、複雑な三次元植物モデルへと変換されます。こうして生成されたモデルは共有データベースに蓄積され、新たな「シード」が加わるたびに、インスタレーション全体も進化していきます。ハーブが結合されたり、枝や葉の比率が変化したりと、構成が徐々に豊かに、そして複雑に発展していくのです。

このインスタレーションの作者はマルチン・イグナツ氏です。

- 収穫前 (Pre-Spring)

森林植物学の長年にわたる研究と、作者自身による自然観察をもとに制作された作品で、植物のライフサイクルの中で、私たちが見落としがちな「何かが始まる予兆」に宿る儚い瞬間に光を当てた、詩的なアートインスタレーションです。

制作者は、ウルシュラ・ザヨンチュコフスカ氏 (SGGW大学教授) と、マウゴジャタ・マリノフスカ氏です。本作品は、まだ開きかけの芽、一枚だけ残った花びら、熟しきっていない実など、通常は見過ごされがちな「移り変わりの瞬間」に観客が目を向け、立ち止まることを促します。



植物標本は、冬の終わりから晩秋にかけてのさまざまな時期に採取され、シリカゲルを用いて慎重に乾燥されました。これにより、立体的な形状や自然な色合い、微細なディテールまでもが保存されています。こうして保存された130種以上の植物標本は、透明な樹脂製の球体の中に封じ込められ、鑑賞者の目の前に静かに浮かび上がります。

- 詩 (Verses)

言葉の力を詩的かつ空間的に表現するインスタレーション。文学と最新テクノロジーを融合させながら、来場者を「鼓動する詩」の一角へと誘います。

パビリオン中央ホールの天井には、ポーランドの詩の一節が印刷された何百枚もの透明なアクリルパネルが吊るされています。古典詩人(アダム・ミツキエヴィチ、ユリウシュ・スウォヴァツキ)から現代詩人(チェスワフ・ミウオシュ、ズビグニェフ・ヘルベルト、ヴィスワヴァ・シンボルスカ)まで、幅広い世代の作品が取り上げられています。

詩が印刷されたパネルは幾何学的な形状に配置され、来場者の頭上に「言葉の雲」として立体的に浮かび上がります。抽象的なその形は、言葉が空間に溶け込むような印象を与え、文学が持つリズムと重なり合う体験を生み出します。

本インスタレーションには、バルバラ・クリツカ、クリスティナ・ドンブロフスカ、マウゴジャタ・レブダ、ウルシュラ・ザヨンチコフスカ、ヤクブ・コルンハウゼル、イエジ・ヤルニェヴィチ、そしてクシシュトフ・チジェフスキの7名の詩人が参加しています。

ポーランドパビリオンのフリデリク・ショパン

ポーランドパビリオンの音楽面での見どころとして、万博開催期間中(2025年4月13日～10月13日)、毎日3回、室内ホールにて実施されるピアノリサイタルが挙げられます。ショパン国際ピアノコンクールの出場者を含むピアニストたちが、偉大なポーランド人作曲家であるショパンの名作を演奏します。

また、万博に合わせて特別に制作されたアニメ映画『Timeless Chopin』も上映されます。この作品は、アカデミー賞短編アニメーション賞を受賞したBreak Thruスタジオが制作しました。ストーリーを通して、「偉大な才能と強い意志があれば、どんな困難や障害があっても目標を達成できる」というメッセージを伝えるアニメーション作品です。

一連の音楽関連イベントのハイライトとなるのが、8月28日～9月3日に開催されるポーランド「ショパン・ウィーク」です。この期間には、ショパン国際ピアノコンクールの日本人入賞者である小林愛実さんとポーランド国立フィルハーモニー管弦楽団による演奏会や、ショパンの作品にインスピレーションを受けたジャズ音楽のコンサートが行われます。また、第18回ショパン国際ピアノコンクールの舞台裏と出場者たちの物語を描いたドキュメンタリー映画『Pianoforte』も上映される予定です。

さらに、ショパンの書簡に関するトークイベントも開催されます。ショパンの生涯と作品についてのコンテストや、タッチスクリーンを使ってショパン風の簡単な音楽を作曲するピアノワークショップもご来場の皆様向けに提供されます。

また、8月29日には、歌手のナタリア・ククルスカ、指揮者で作曲家・ピアニストのアダム・シュタバ、そしてポーランド国立フィルハーモニー管弦楽団のメンバーが、『感性豊かな弦楽コンサート』を開催し、ショパンの楽曲をヴォーカルとシンフォニックアレンジで披露します。

ポーランド共和国の2025年大阪・関西万博出展について

ポーランドパビリオンの案内スタッフは、ポーランドの大学生が担います。科学・高等教育省との協力により、ポーランド国内のワルシャワ大学、アダム・ミツキェヴィチ大学、ニコラウス・コペルニクス大学、ヤギェロン大学、グダニスク大学、SWPS大学、ポーランド日本情報工科大学の学生を対象とした6か月間のインターンシップが企画されています。案内スタッフがポーランドについて来場者に日本語で案内できることが、ほかの国のパビリオンとの大きな差別化要素です。

また、ポーランドパビリオンの公式アンバサダーには下記の4名が就任しています。

- スワヴォシュ・ウズナンスキ=ヴィシニェフスキ氏
技術者、科学者、宇宙飛行士で、今年中に国際宇宙ステーション(ISS)へ飛行予定
- クシシュトフ・インガルデン 氏
建築家、ポーランド学術アカデミー会員、ポーランド学術アカデミー会員、文化功労賞受賞者、在クラクフ日本国名誉領事
- ロベルト・コジェニオフスキ氏
元陸上競技選手、競歩選手、オリンピックで4つの金メダル、世界選手権で4つの金メダル、そしてヨーロッパ選手権で2つの金メダルを獲得
- 海老原由佳氏
日本人バレエダンサー。2011年9月よりワルシャワ国立オペラ劇場に所属。2013年9月以降同劇場のプリンシパルを務め、2020年1月からはポーランド国立バレエ団のプリンシパルを務める

万国博覧会の理念

万国博覧会は、経済、宣伝、文化、観光といったテーマを組み合わせた世界最大かつ最も権威あるイベントです。その規模はオリンピックやワールドカップに匹敵します。1851年にロンドンで開催された第1回万国博覧会を皮切りに、万国博覧会(通称:万博)は毎回半年間にわたって開催され世界の中心となり、最高レベルの国家代表団から新たな契約を求めるビジネスマン、さらには観光客まで、大勢の来場者を集めてきました。

スタートした当初、万博は主に知識と科学的成果を共有する場でした。その後、現代世界の課題、テクノロジー、開発に関して意見交換する場にもなりました。また、ナショナルパビリオンやパビリオン内で開催されるイベントに参加することで、より多くの観客がその国を「発見」または「再発見」する機会を得るイベントでもあります。文化、価値、伝統、観光名所を紹介する機会は、各国にとって経済振興と同じぐらい重要です。

ポーランド共和国の万国博覧会出展の歴史

ポーランドの万博出展には150年以上の歴史があります。1867年には、マウエツキのピアノ工場、マクシミリアン・ファヤンスのアトリエ、トロツァーの金属工具工場など、ポーランドの有名企業がパリに出展しました。ウィーン(1873年)、パリ(1878年、1889年)、シカゴ(1893年)で開催された国際博覧会では、ポーランド人が何度も入賞しました。戦間期には、最初のナショナルパビリオンが建設されました。パビリオンでは、ポーランドの経済的成果及びポーランドの歴史を紹介し、ポーランド企業の製品も宣伝しました。1939年、第二次世界大戦前にポーランドが参加した最後の博覧会が、ニューヨークで開催されました。



Poland.

Expo2025.Osaka.Kansai

ポーランドが国際博覧会での出展を再開したのは、セビリア(1992年)からです。これを皮切りに、リスボン(1998年)、ハノーバー(2000年)、愛知(2005年)、サラゴサ(2008年)、上海(2010年)、ミラノ(2015年)、アスタナ(2017年)、ドバイ(2021年)で開催された国際博覧会に参加しました。ドバイでは、「自然にインスパイアされた創造性」をテーマとしたポーランドパビリオンに、最優秀インテリア・デザイン賞として主催者から銀メダルが授与されました。



Polska Agencja
Inwestycji i Handlu
Grupa PFR



Ministerstwo
Rozwoju i Technologii

Poland.
Business Forward

Poland at Expo : 公式アカウント

公式ウェブサイト	www.expo.gov.pl
Facebook	www.facebook.com/ExpoPL
LinkedIn	www.linkedin.com/showcase/poland-at-Expo/
Instagram	www.instagram.com/polandatExpo/
X	www.twitter.com/ExpoPL
YouTube	www.youtube.com/@expoPoland

公式ワードリスト

2025年日本国際博覧会 / 2025年大阪・関西万博
ポーランドパビリオン Poland Pavilion (形容詞を使用した"Polish Pavilion"とは表記しない点にご注意ください)
2025年日本国際博覧会ポーランド政府代表 / 2025年大阪・関西万博ポーランド政府代表
ポーランドパビリオンの公式テーマ: ポーランド。未来を切り拓く遺産
2025年大阪・関西万博の公式テーマ: いのち輝く未来社会のデザイン
フリデリク・ショパン Fryderyk Chopin (ショパンがポーランド出身であることを周知するために、日本で広く使用されているカタカナ表記の「フレデリック」(フランス語風)ではなく、ポーランド語風の発音「フリデリク」を使うよう、ポーランドパビリオンでは統一しております。)

